

ローダデール文庫 —東京経済大学図書館所蔵を紐解く—

高 梨 武 臣
(東京経済大学)

ローダデール伯旧蔵書は、1987年から数回にわたってロンドンの Southeby's で競売に付された。その大部分は丸善が代理人 Pickering 社から、追加分の蔵書は別ルートから入手したものである。早稲田大学が政治パンフレットの部を購入し、経済学コレクションを東京経済大学が購入した。

これら蔵書は1770年から1805年頃にかけて様々な方法で蒐集されたものと丸善から案内されていたが、コレクションにはローダデール自身が蒐集したものと、代々の遺産として受け継がれたものが含まれているようである。したがって、このコレクションは正確には、第8代 Maitland 自身が蒐集したというよりも、ローダデール家の旧蔵書というべきであろう。このことは十分注意しなければならない。

<コレクションの輸入>

ローダデールが一大コレクションを持っていたことは知られていたが、その全貌については明らかでなかった。東京経済大学では、購入してから、次なるコレクションが持ち込まれるということで、売り主の意向に翻弄される結果となった。このコレクションの日本への導入の経過とその内容について、服部正治と大森郁夫が『経済学史学会年報』の中で詳細に報告されているので、以下一部分を引用する。

「コレクションの一部がロンドンのサザビーで競売にかけられたという情報が丸善にもたらされたのは、1987年夏休み前であった。その後それは五回に分けて売り出され、丸善をつうじて第一・二次分が東京経済大学図書館、第三次分のなかの POLITICAL TRACT AND PAMPHLETS というテーマで一括された46巻のコレクションが早稲田大学図書館、その他の第三次分も東京経済大学図書館で購

入され……それぞれの背表紙には例えば次のようなサブジェクトが印刷されている。ESSAYS ON TRADE AND MONEY/VARIOUS ESSAYS ON TRADE & COMMERCE &C./STATE OF ENGLAND, AMERICAN COLONIES &C./TRACTS ON FINANCE &C./etc. パンフレット類では貿易や財政および南海泡沫事件関係のものが多数占めている。また、J. ロック、W. ペティ、G.de マリーヌズ、T. マン、J. チャイルド、E. バーク、N. バーボン、J. アスギル、W. パターソン、A. ハッチスン、J. ネッケル、S. de ヴォーバンなどの初版や初期版も多く、特に J. マッシーの著作が 13 種 20 点以上も収録されていることは、注目に値しよう。……一方、第三次分の一部として早大で購入された POLITICAL TRACTS AND PAMPHLETS も、46 巻のなかに 123 点の書物と各巻平均 10 冊のパンフレットをもった大きなコレクションである¹⁾。」

一方、Pickering 社が落札できなかった蔵書の一部は、古書市場に流れたことを確認している。経済学のリーフものはコレクションに繰り込まれ販売された。武蔵大学が金融学科創設の時購入した金融関係コレクションの一部にはブリスコ、チェンバーリン、ミラーなど 3 点の一枚もののリーフやそれに準ずる小冊子が含まれていた。

東京経済大学では 1990 年の創立 90 周年記念事業として 94 巻 (1359 点) を購入し、丸善のギャラリーで展示会を開催した。その成果が『東京経済大学創立 90 周年記念・図書館所蔵 ローダゲール伯文庫目録』として刊行された。目録の作成中に、丸善よりコレクションの追加部分がオークションにかけられ、その中にスミス『国富論』へのローダゲール自身による書き込み本があるというビッグニュースが舞い込んできた。したがって、目録に追加することできず、この目録は暫定的な展示目録の範囲を超えることはできなかった。展示目録の“あとがき”に「この目録において、今回の展示に間にあわせるために、収録対象を 1989 年度末までに本学図書館に収録された 94 巻 (1.359 点) に限定せざるを得なかった。1990 年度以降入手分を含めた完全な『ローダゲール伯文庫目録』を作成することは、今後の課題としてのこされている。」と付記されている。

<購入の経緯>

東京経済大学ではこれらのコレクションは通常の図書館予算では購入できないので、学内の教員による検討委員会が設置された。そして、学内外の杉山忠平、津田匠、小林昇、水田洋ら有識者による「所見」を頂戴した。一部分を抜粋すると、「経済学の蔵書としては、メンガー文庫（一橋大蔵）、シュンペーター文庫（一橋大、ハーヴァード大蔵）、ケインズ文庫（ケンブリッジ大蔵）、ハロッド文庫（千葉商大、名古屋商大蔵）などがよく知られている。しかし、これらのものは、メンガー文庫のように広範な経済学古典を含むものもあれば、いずれも近代文献を中心とする近代の蔵書である。古典的時代の個人蔵書では、アダム・スミス文庫（一部は東大蔵）が知られ、スミス蔵書はそれ自体が一研究対象とされているほどであるが、しかしこれは、スミス思想やスコットランド啓蒙や、哲学・法学・修辞学などの一形成を知るためには重要であるものの、経済学や政治論にかんする文献を余り多く含んでいないのが特徴である。……ローダゲール文庫は経済、政治、文献に集中し、しかも古典的時代のものであり、何よりも現物が実際に存在している点でおそらく空前にして、絶後と云ってよい。」(杉山)「チュルゴ蔵書は死後に、一点も残さず売り立てられているが、ローダゲールの旧蔵書は幸いにも孫に引き継がれ現存する姿を目の前にして、驚愕しました。」(津田)「Lauderdale 卿の蔵書が一括して市場にでました。これは経済・政治思想の研究史上の重大な事件であり、19世紀に入って以来の研究者がかって経験したことのない出来事だと思います。」(小林)「これだけ広範・大量の個人蔵書は、他に例がない。」(水田)などと熱い推薦文を寄せていただいた。この結果、特別予算を投じて残る総てを購入する決断をし、スミス『国富論』も入手できることになった。その後、またまた、ノルウエーの経済学者、Dr. Reinert が1990年オークションで自らが購入した21巻380点を、「日本の所蔵大学に納入することが良い」との見識から手放すことを決断し、丸善が仲立ちとなり、東京経済大学にオファーされた。図書館ではコレクションの分散・散逸を守る意味からも継続して購入した。

経済学のコレクションとしては、メンガー文庫、セリグマン文庫、クレス文庫、ゴールドスミス文庫が4大コレクションとして知られて

おり、そのいずれもが目録化されている。もし、ローダデールの所蔵分はそれら文庫に所蔵されていない版本を含んでいるので目録が完成されれば、5大コレクションとしてデビューできる。東京経済大学図書館では、10数年の歳月をかけ索引を含めた目録原稿を完成させたが大学の理解を得ることができず、お蔵入りとなってしまった。227巻、3079点。この中には1枚もののリーフや新聞そしてローダデールの書いたマニュスクリプト類も含まれている。

<Lauderdale 手稿目録>

このコレクションの一大特色は手稿目録と蔵書の実物が四散されることなく代々引き継がれてきたことだが、ローダデールの全蔵書を記録した手稿目録については、早稲田大学の政治関係コレクションの部には同時に収められていた。しかし東京経済大学に納入された経済関係のコレクションの部では後半部分のコレクションに入っていた。ローダデール自身と、書記の手、それも何人かの手により所有する全蔵書を記録したものである。この目録は全6巻から成り、早稲田大学に政治関係の部1冊、その他は東京経済大学のコレクションの一部として5冊が納められている。杉山忠平先生の手によりそれら全5巻は忠実に黒と赤のカーボンタイプで復元された。誤字は[sic.]で補記されている。それぞれそれぞれの巻が独立した年代のもとに著者、タイトル、刊行年が記されている。ローダデールが何を持っていたか、そして何を持っていなかったか、について調査するためには有効であるが、刊行年をもとにそれぞれの巻を見なければならない。

<コレクションの特色>

ローダデールが一大コレクションを持っていたということについては同時代人により証言されている²⁾。マッシーやチュルゴのように四散してしまう例もあるが、なぜか、売りたいとされることがなく代々引き継がれてきた。それは、貴族の財産として世襲されてきたこと、合冊製本されたことにより子孫が保存し易かったかたのなかだろうか。図書館に子孫であるらしい Clan Maitland, Deputy Chief & Treasurer The Master of Lauderdale, Viscount Maitland から1994年書状を受け取った。“The catalogue is interesting, but with the key passages written in Japanese, we are unable to appreciate its

contents fully ... We publish a Yearbook for Maitlands world-wide (there are about 4, 000 Maitland families listed) ...”とあった。「ローダデール家の当主はいまでもサールステン・カースルに住むらしい³⁾。」

ローダデールはこの膨大なコレクションをどのように集め、自著に役立てていたのであるか、ということについては興味をそそられる。ローダデールの蔵書には献呈本のほか、代々の遺産によるもの、古書市場から購入したものがある。タイトル頁に“L”というスタンプがあるものは古書市場から流れたものである、と丸善から報告を受けた。ローダデールはいわゆる愛書家として蒐集したものではなく、政治を担う貴族として、また、著述家として必要な書物を集めたものである。初版を集めるという方針でもなく、至る所に書き込みをしている。そして、代表的古典も必ずしも完備してはいない。例えば、リカードの主著とされる『経済学および課税の原理』は所蔵していない。何よりも容赦ないトリミング（化粧裁ち）をし、自在に活用していた。合冊製本は誰がしたかについては明らかでないが、それにより散逸を防ぐ結果となった。

以下、特色を列举してみる。

1. 献呈本が多い

Robert Macdonnel, John Allen, Henry Holland, Edward Suffield, John Sinclair, A. Shee, Richard Page, M. Fletcher, John Scott-Warning, Robert Wilson などからの献呈本がある。

2. 蔵書票

蔵書票はいくつかの本にしか見ることはできなかった。「蔵書の売り主の強い希望が途中から届いて、本の出所をかくすために、競売市場で、蔵書票をはじめからはがしとる作業が行われていたというのである。……そのときすでに落札ずみの本、それゆえ現物がそこには本には作業がおよぼはずもなかった。……かくて東京経済大学に届いた蔵書中には、ローダデールの蔵書票の貼られたものがいくつも混在している結果となった⁴⁾。」第1期分では蔵書票があるのは2点だけであった。旧蔵書票の上に自分の Ex-Libris を重ねて貼り付けたものもある。

3. 遺産本

代々のスコットランドの名門家系でもあったので、引き継いだものも多い。古典時代の本の中に、予約者のネームを印刷する習慣もあった。その中には第5代 Earl of Lauderdale と William Maitland の名もある。また、第7代ローダデール（父）への献呈本も見つけられた。

4. 取引による入手

B. Hepburn, Duke of Bedford, M.Ramsay, G. R. Treby などのサイン入りの書物は古書市場で買ったものであろう。パンフレット類はコレクターから買ったものと推測される。

5. 重複本

ゴールドスミス文庫、クレス文庫を形成した Foxwell 教授は収集する時いつもメモ用紙と電報用紙を用意していたそうだが、ローダデールの場合は重複本が目立つ。東京経済大学の所蔵分だけでもおよそ337冊が重複している。異版本については、学問的にそれ自身が研究対象となるので意味があるのだが、これについては157点所蔵している。

6. 蔵書の管理

蔵書の管理は誰がどのように行っていたかについては究明すべき材料はない。Pickering 社は、恐らく1810年までにバインドされたものであり、しかも、短期間にひとつの製本屋によって行われたものだろう、と解説している。丹念に1冊1冊見てみると、たとえば、折込頁などには気を配っていることがわかる。また、主題別に製本が施されており、反駁書なども一緒になされていることなどからも書物の内容に熟知していないとできることではない。

7. 書き込み

研究の痕跡が随所に見られ、その質量ともに、どのコレクションにも見ることができない最大の特色である。一番目を引くのは、アンダーラインと余白への書き込みである。アンダーライニングは横軸の一重・二重線、三重線で、縦軸のライン、そして赤と黒インクで自在にマーキングされ、几帳面に扱われている。余白への書き込みも多彩である。「スミス国富論の p.361 に引用されている」「Liverpool の p.92 を参照せよ」などが例である。未刊のカード目録（原稿）ではそれら

を注記した。

タイトルページの書き込みには他のメリットがある。古典期の出版物は官憲から自身を守るためにしばしば自分の名を伏せて出版した。By the true lover of England とか By the author of . . . とかの匿名を使ったり、あるいはイニシアルの A とか P で示すこともある。古版本の書誌でも推定著者の同定にあたって、議論がしばしば行われている。このコレクションにはタイトルページに著者の名前が書かれているものもあり、その意味では推定著者の同定に役立つ材料を提供している。

8. Interleaved Copy

『国富論』かき込み本をみると、蔵書中の他の書きこみ本とあきらかにことなっている。たんに書きこみがあるのではなく、原本をばらばらにして、ページごとに書きこみ用紙を挿入し、製本しなおしていることである。そのため、2巻本のどちらの巻も、原本の2倍近い厚さになっている。書き込みのない挿入紙もある。逆に挿入紙ばかりか、原ページ余白にもあふれるほどの書き込みのあるところもある。『国富論』と、それらの書き込みと、そしてできあがったものとしてのローダゲール『公富論』との比較対照は、今後の研究者にとって、大いにスリリングな作業であるにちがいない。⁵⁾ 東京経済大学ではこの世界的遺産を製本専門家の岡本幸治氏に依頼し立派に復元することができた。それは、原本を和紙で裏打ちし高度の技術で原本に忠実に復元することであった。革装丁もオリジナルの革を補修することによって原本に近いものとすることができた。

杉山忠平先生はその書き込みのすべてを解説し、その成果が、*Lauderdale's notes on Adam Smith's Wealth of Nations* として1996年 Routledge 社より刊行された。

こうした Interleaved Copy は『国富論』だけではなく、交友関係にあったジェームス・スチュアートの『貨幣論』やジョン・ベネットの *National Merchant* やスコットランド人で後にボストンに移住した植民地時代のアメリカ経済評論家であるウィリアム・ダグラスの『アメリカにおけるイギリス植民地の通貨について』とか、ダニエル・デフォーの『イングランドの国内貿易小論』や自由貿易論を

主張したチャールス・ダヴェナントの *A report to the honourable the Commissioners for putting in exertion, the act, intituled, An Act, for the taking, examining, and stating the publick accounts of the kingdom* やウイリアム・ウエプスターの *The consequence of trade, as to the wealth and strength of any nation, of the woolen trade in particular...* などがそれである。

8. 合冊製本

コレクションは主題のもとに合冊製本されている。『国富論』のように独立した製本もあるが、概ね10タイトル、多いもので、パンフレットの類のものは、60タイトルに及ぶものが1冊に合冊製本されている。商業、東インド会社、税などの主題に合わせたり、あるいは年代に合わせて、同年代に刊行されたものを、または批判、反批判、反駁書をあわせるように緻密に設計され製本されている。

一方、製本のミスにより著作物の一部が全く他の巻に製本されているものも散見される。これはカタログー泣かせの仕事であった。例えば、Supplement や Appendix の部分が他の本に製本されている。

ローダゲールによる合冊製本のデメリットはトリミングである。今日では、刊行時の現状を最大限に生かすよう工夫して製本するが、この時代には、ブレイズの『書物の敵』で指摘していることですが、ためらいもなく裁断されている。このため、冠詞の A, The が抜け落ちているものも散見される。また、簡略書名 (Half-title) も粗末に扱われたようで、無いものが多い。

9. 不完全本

大著の一部分だけ独立して製本されていて、他の部分はタイトル頁も含めて廃棄してしまったものもある。ローダゲールは研究に必要としたものだけを残していたものであろう。

10. 所蔵の多い著述者

所蔵の多い順にならべると、Joseph Massie, Danniell Defoe, Josiah Tucker, Josiah Child, Archibald Hutcheson, William Pulteney, Richard Cox などであるが、マッシーの文献が際立っている。三上隆三先生のリスト⁵⁾でマッシーの著作とされるものが38タイトル+マッシーの著作とされるものが5タイトルあげられているが、東京経済

大学のコレクションのなかだけで、19タイトルも所蔵していることになる。『英国の植民地砂糖貿易論』（1759）では一橋大学所蔵は第1部だけであり、神戸大学の分は2・3部だけであるが、ローダゲールコレクションでは、それらとは異なり、3部構成ではなく、まったく別の刷りで同年に刊行された別本であることも分かった。

11. 地金論争

Bullion Controversy はリカードが1809年 *Morning Chronicle* に『金の価格』と題する論文を載せたことから論争が起こったものだが、地金委員会の報告書をはじめ Bullionist と Anti-Bullionist の論文が多く所蔵されている。

12. 議会パンフレットと新聞クリッピング

いわゆる Parliamentary Paper なるものではないが、政府機関による資料、例えば、財務省、税務局、海運省、陸運省、関税局などが議会から命ぜられて作成した財政の見積書の類であり、所蔵しているものは18世紀後半から19世紀始めにかけての報告書である。こうした資料は独立したタイトルがないものもあり、1頁モノから数頁にわたるものが混在している。サイズもブロードサイズ用の紙に印刷されていて、タイトル部分が見られるよう折りたたんで綴じられている。内容は、兵舎の見積り、兵舎を建てる費用、家具、ベットの費用、兵士のサラリー、兵員や馬の数など軍事費の見積りなどである。これらの報告書が各巻に散りばめられてバインドされている。新聞記事では *Morning Chronicle* など、金融関連の切り抜き記事や全頁が随所にバインドされている。これら記事には丹念に目を通していたようで、本と本の間綴じられていたり、見返し部分 (end paper) に貼り付けられてもいる。アンダーラインや書き込みメモにより丹念に精査した痕跡が見られる。ローダゲールの年譜を見ても議会で国家財政について注意を喚起していることがわかるが、その資料にしたものであろう。

- 1) 服部正治・大森郁夫「ローダゲールの蔵書について」『経済学史学会』27 (1989. 11) p. 46.
- 2) 「D. スチュアートは自らの『アダム・スミス伝』の注のなかで……ローダゲールの……イギリス稀観書文献の興味深くて貴重なコレクションから教えを受けた……」

同 p. 45.

- 3) 杉山忠平「貴族経済学者とその蔵書—ローダデル伯文庫をめぐって—」『東京経済大学学報』創立90周年記念号 23巻4号 (1990.10) p. 10.
- 4) 同上
- 5) 同上
- 6) 三上隆三「ジョーゼフ・マッシーの書目」pp. 1-41 『近代利子論の成立』巻末 未来社 1979.

ローダデル関係書誌

注：◎は単行本 △は未見

高橋誠一郎「一千八百〇四年版ローダデル伯爵著『公富論』」◎『古版西洋経済書解題』（慶應出版社 1943）pp. 447-471/復刻版◎『高橋誠一郎経済学史著作集』第4巻 創文社 1994. 1, pp. 373-392.

南方寛一「Lauderdale の価値論」『国民経済雑誌』104巻4号, 1961. 10, pp. 32-50.

「ローダデル」◎小林昇編『経済学史小辞典』（学生社 1963）pp. 218-219.

△上野格「モートン・ペイグリン「マルサスとローダデル、反リカードの伝統」※書評『成城大学経済研究』19巻 1964. 3, pp. 201-205.

溝川喜一「ローダデルの不均衡論」◎『古典派経済学と販路説』（ミネルヴァ書房 1966）pp. 174-197.

△高木仁「ローダデル伯爵の公富論について (1),(2) <博士課程学生及び単位取得研究論文>『明治大学大学院紀要』4集, 1967. 3, pp. 645-654: 第5集, 1967. 12, pp. 385-392. 注:(1)の書名は「ロオダデル……」とあり。

小林時三郎「1815年におけるマルサスとローダデル」『文経論叢』（弘前大学人文学部）6巻5号 1971. 3, pp. 23-35.

服部正治「ローダデルにおける経済と政治 —イギリス産業革命と対仏戦争—」1, 2, 3『立教大学経済学研究』32(29), 1978. 10, pp. 85-111: 32(3), 1978. 12, pp. 239-265: 32(4), 1979. 3, pp. 117-144.

服部正治・大森郁夫「ローダデル蔵書」『経済学史学会年報』27, 1989. 11, pp. 44-47.

杉山忠平「ローダデル文庫 —異端派学派の正統派コレクション」『学鏡』87巻10号, 1990. 10, pp. 12-15.

杉山忠平「貴族経済学者とその蔵書 —ローダデル伯文庫をめぐって—」『東京経済大学学報』23巻4号, 1990. 10, pp. 8-11.

- 杉山忠平「ローダデイルの経済学説 — アダム・スミス批判を中心に」『東京経大会誌』172号, 1991, pp. 89 - 104.
- 杉山忠平「ローダデイル文庫の歴史的意義」『信濃毎日新聞』1994. 8. 4.
- 安川隆司「ローダデイルの東インド会社論」『東京経大会誌』191号, 1995, pp. 219 - 230.
- 杉山忠平「ローダデイルとスミス — 『国富論』手書きノートを読み解く」『学鏡』93巻4号, 1996. 4, pp. 10 - 15.
- Lauderdale' s Notes on Adam Smith' s Wealth of Nations*, ed. by Chuhei Sugiyama, London, Routledge, 1996
- 安川隆司「ローダーデール」◎経済学史学会編『経済思想史辞典』（丸善 2002.）12, pp. 454 - 455.
- 安川隆司「ローダーデイルの穀物法論」◎永井義雄他編『マルサス理論の歴史的形成』（昭和堂 2003. 6）pp. 247 - 269.